



化、低エネルギー角度分解高分解能エネルギー損失分光による有機半導体単結晶の励起子の分散関係測定など、分光研究の裾野の広がりを認識できる研究成果が多く紹介された。ポスターセッションは3日間にわたり開催された。一人あたり5分のショートプレゼンテーションの後に1時間の発表時間を設けることで、ポスター発表の内容を詳細に把握できるように工夫した。1日あたり6件のポスターに絞ったため、参加者は全てのポスター発表について詳細に議論できた。

期間中に開催した国際運営委員会で、今回は中国蘇州での開催を決定した。ワークショップの閉会式で、国際運営委員の一人である解良聡教授(分子科学研究所)から、

Steffen Duhm 教授(蘇州大学、本ワークショップの招待講演者の一人)が次期委員長を務める旨のアナウンスがあり、今回は対面での開催を参加者全員で願いつつ、本ワークショップを無事に終えることができた。

最後に、ワークショップの運営を援助していただいた鹿島学術振興財団と村田学術振興財団、ハイブリッド開催に際し技術的サポートをいただいた物性研究所の矢田裕行技術専門職員と野澤清和特任専門職員、会場運営を手伝っていただいた学生諸氏に感謝する。

なお、プログラムと要旨集は、下記の Web サイトから入手が可能である。

[https://yoshinobu.issp.u-tokyo.ac.jp/ASOMEAX\\_web/index.html](https://yoshinobu.issp.u-tokyo.ac.jp/ASOMEAX_web/index.html)

#### ASOMEA-X 組織委員長

吉信淳(東京大学物性研究所、教授)

#### ASOMEA-X 国内組織委員会:

荒船竜一(物質・材料研究機構、主任研究員)、赤池幸紀(産業技術総合研究所、主任研究員)、小澤健一(東京工業大学、助教; 現、高エネルギー加速器研究機構、准教授)、山田洋一(筑波大学、准教授)、吉田弘幸(千葉大学、教授)、中山泰生(東京理科大学、准教授)、原田慈久(東京大学物性研究所、教授)、近藤猛(東京大学物性研究所、准教授)、岡崎浩三(東京大学物性研究所、准教授)、黒田健太(東京大学物性研究所、助教; 現在、広島大学、准教授)

#### ASOMEA-X 運営事務局:

田中駿介(物性研・助教)、向井孝三(物性研・技術専門員)、八木橋由紀子(物性研・ナノスケール物性研究部門秘書)

#### 国際運営委員会:

Prof. Satoshi Kera, Institute for Molecular Science, Japan  
Prof. Joachim Schnadt, Lund University, Sweden  
Prof. Stacey Sörensen, Lund University, Sweden  
Prof. Petra Tegeder, Universität Heidelberg, Germany  
Prof. Ulrich Höfer, Philipps-Universität Marburg, Germany  
Prof. Norbert Koch, Humboldt-Universität zu Berlin, Germany  
Prof. Steffen Duhm, Soochow University-Western University, China  
Prof. Wei Chen, National University of Singapore, Singapore  
Prof. Jun Yoshinobu, The University of Tokyo, Japan

(文責: 赤池幸紀、小澤健一、吉信淳)





図：辛埴博士によるオンライン・チュートリアル講義のスクリーンショット